



タンポポだより

2018
冬号
vol.27

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌

冬のもの
 冬生まれの
 ゆたしには
 冬のもが
 一番慕わしい
 冬寂みの
 庭に咲く
 つゆの花
 さやんかの花
 連山に光る雪
 すべこはまはるのなか
 じつと自分をうつこいる



タンポポ堂のさざんか

館長エッセイ

【第二十七回】

真民の「思索ノート」に対する想い
〈番外編〉

真民詩を読み解く ②6

「深く掘り下げていく」生き方 「ねがい」

真民詩とわたし

言葉の力に支えられ救われました

はちや かずよ
蜂谷 和代 さん

記念館からのお知らせ

開館7周年記念特別展

「真民詩とともに生きてゆく

～坂村真民記念館7年の歩み～」

コーヒーブレイク

版画家・畦地梅太郎さんと

真民さんとの関わり

【第二十七回】改題と「詩記」になった理由を考察する

真民の「思索ノート」に対する想い

〈番外編〉

2回にわたって「思索ノート」の題名の変遷とそこに込められた真民の想いを書いてきました。今回は、なぜここに来て、「詩記」に落ち着いたのか、ということを少し書いてみたいと思います。

真民は、昭和26年7月に「参禅録」として書き始めた「思索ノート」を250冊目に『詩記』と題名を変えるまで、13年間の間に35回も題名を変えています。

吉田時代（昭和26年7月から31年3月）には4回しか変えていないのに、宇和島時代（昭和31年4月から39年5月）には、31回も題名を変えています。これは、前にも書きましたように、宇和島に来てからの、真民の精神的な不安定と、学校生活への不満（教員への管理体制が厳しくなったことや学校用務の多さ等）等から詩が書けなくなり、それを打開するために色々と試行錯誤する過程

で、「思索ノート」の題名を変えることによって、自分も変わりたいという想いが、現れているのだと思います。

それが、昭和37年7月に個人詩誌「詩国」を発刊することが出来たことにより、詩を書くことを再び生活の中心に置き、毎月「詩国」を発行するために精神を集中していくという生活スタイルが定着することになります。

一方でこの時期、真民の家庭の中では、長女と二女が続けて大学へ進学しており、その費用を捻出するために真民は毎年1冊発行してきた自費出版の詩集の発行を中止して、その費用を子供の学費に充てたり、経済的にかなり苦労していました。

「詩国」に発表される詩にも、三人の子を養ってゆく「覚悟」の詩が多くなり、真民は宇和島に来て以来の個人的な悩みで苦しむことより、毎年出して

いた「詩集」を止めてでも、子供たちのために生きてゆく覚悟を決めたことにより、精神的な落ち着きを取り戻すことが出来、「思索ノート」の題名にもそれが反映されてきたのだと思います。

そして、二女が無事に大学に入學した昭和39年の5月24日から、題名を「詩記」として落ち着くのです。その日の「思索ノート」には、「このノートに詩記とするのは、死期の迫るのを知りながら書くという意味である。死はいつくるかわからない。だからこそただ一つのことをひたすらに求め、ただ一つの道をけんめいに歩かねばならない。詩に死して悔いがない覚悟を固めるためにも、詩記としよう」と書かれています。

この「詩記」という題名は、中国の歴史家である司馬遷の「史記」から採ったものです。真民は、昭和38年5月に発行された貝塚茂樹著「史記」を読んで、



「史記」を完成させることだけに命を懸けた司馬遷の生き方に感銘を受けて、ノートに「希望をなくしようとするときは司馬遷を思え、絶望・暗黒・不信・孤独一切が自棄を要求するときは司馬遷を思え」と書いています。

ここに、「詩」を書くために必要な心の軌跡、その想いを綴る、書き記す「ノート」としての「詩記」という題名は、単純明快で、しかも本質を突いた名前に落ち着いたのです。

真民は、昭和39年6月14日の「詩記」には「いろいろと名をかえてきたが、もう変更しないであろう。詩は死なりという一大自覚がはつきりしたから、もうぐらぐらせぬであろう。」と書いています。

こうしてようやくこの題名に落ち着き、796冊目でペンを擱くまで「詩記」を書き続けることになるのです。

言葉の力に支えられ救われました

はちや かずよ
蜂谷 和代 さん(63歳)

心身の不調で教師の仕事を支えられなかった蜂谷和代さんは、上司から『朴』など3冊の詩集を贈られた。それが真民詩との出会いだった。言葉の力に救われた蜂谷さんは、弱者に寄り添う心と言葉へのたしかな信頼を胸に、子どもたちを導いてきた。



「詩国」とともに届いた最初の便り

◆がむしやらの日々の果てに

大学を卒業後、結婚して岡山で教師になりました。昭和55年2月に最初の子を出産し、その4月から新採として小学校に勤め始めたのです。体力には自信があったので、仕事にも家庭生活にも一生懸命でした。

ところが、思いがけず2年後に心身に不調をきたし、休職を余儀なくされました。教師を辞めようと思い詰める私に、当時の校長先生は「いつでも辞められるから」と優しい言葉をかけてくださり、ファンだといって真民詩集3冊を届けてくれました。

夢中になって詩集を読みました。感動で胸がいっぱいになり、すぐに真民先生にお手紙を書き、「こんなはずで

はなかった」という葛藤に苦しんでいることをしたためました。

ほどなく、巻紙のお手紙が送られてきました。世の中には苦しんでいる人が多数おられることに触れ、「タンポポのような明るい人になつてください」の一文で締めくくられていました。

そのお手紙にどれほど救われたことでしょう。それから手紙のやりとりが始まり、病も癒えて、3カ月ほどで仕事に復帰できました。

◆病がもたらした気づき

休職中はつらい思いをしましたが、病によって大きな気づきを得たのも事実です。様々な良さのある子どもや弱い立場の人に寄り添う気持ちが強くなったのです。

その後、特別支援教育にも携わり、小学校長を最後に定年退職したあと、現在は倉敷市で人権啓発の仕事をしています。

◆真民詩で心の教育を

真民先生の詩は短くて分かりやすく、美しく温かい。言葉が心に寄り添って、言葉のもつ強さ、力を感じます。

教育現場でも、「つみかさね」など、私の好きな真民詩を子どもたちに読んで聞かせたり、保護者との連絡ノ

トに綴ったりしました。人を思う気持ちや地道な努力の大切さなどが、子どもたちの中で育まれていることを実感し、保護者からも心温まる声が届けられました。

つみかさね

一球 一球のつみかさね
一打一打のつみかさね
一作 一作のつみかさね
一歩 一歩のつみかさね
一念 一念のつみかさね
一坐 一坐のつみかさね

つみかさねの上に

咲く花

つみかさねの果てに

熟する実

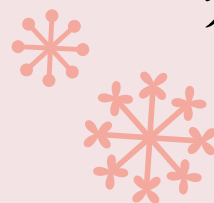
それは美しく尊く

真の光を放つ

私自身が吉田町出身であり、しかも先生がかつて教鞭を執られた宇和島東高校卒と、浅からぬ縁を感じています。お会いすることはできませんでしたが、真民先生には感謝の思いでいっぱいです。

「深く掘り下げていく」生き方

「ねがい」



ねがい

わたしの

詩の世界は

広くはない

高くもない

だが深さでは

負けないものを持つとう

この詩は、昭和60年、真民76歳の時の詩です。

坂村真民は、40歳の時に書いた最初の詩、「六魚庵箴言」に、『狭くともいい、一すじであれ、どこまでも掘り下げてゆけ』と書いていますように、人間として生きていくための根底に、「深く掘り下げていく」ことを置いて生きてきました。

詩を書くことにおいても、信仰にお

いても、「深く掘り下げていく」という生き方が真民の生涯の生き方でした。それは、人生の最後まで変わらず、95歳になっても、96歳になっても、毎日書き綴った「詩記」には、「しつかりしろしんみん、まだまだいかん」と自分を戒め、今の自分に満足することなく、さらに自分を深めるために努力する生き方を貫きました。

真民には77歳の時に書いた「広さと深さ」という詩があります。

広さと深さ

体が弱くから

見聞する世界も広くはないが

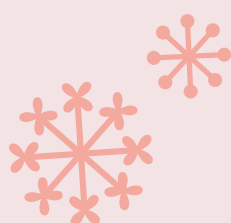
信仰によつて

深くすることはできる

広さよりも

深さを求めてゆこう

広さを求めるのではなく、高さを求めるのではなく、下へ下へ、深く深く求めてゆく、という生き方が真民の生き方なのです。

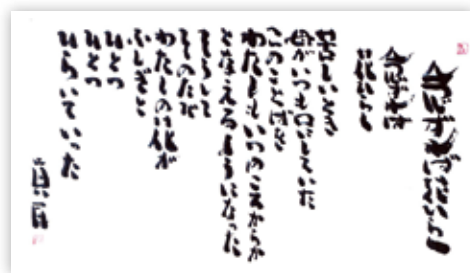


広さと深さ
体が弱くから
見聞する世界も広くはない
信仰によつて
深くすることはできる
広さよりも
深さを求めてゆこう

ねがい
わたしの
詩の世界は
広くはない
高くもない
だが深さでは
負けないものを持つとう

「真民詩とともに生きてゆく ～坂村真民記念館7年の歩み～」

期間 平成31年
3月2日(土)～6月16日(日)



〈開催趣旨〉

坂村真民の詩は、真民自身が、つらいことや、悲しいことをいっぱい経験して、また、家族とともに、うれしいことや、幸せに生きる喜びを感じて生きる中で、さらに人間として如何に生きるかを自らに問い、その答えを考える中で生まれてきたものです。

真民詩を読んで、真民詩が好きになる人は、こういう真民の経験を自分の人生に重ねて、つらい時も、うれしい時も、悲しい時も、幸せな時も、いつも真民詩に見守られ、励まされているのだと思います。

坂村真民記念館は、そういう真民詩を大切に、これまで来館された多くの方々とともに歩み、ともに生きてゆくことを願っています。

今回の特別展は、これまで7年間に来館された方々が「アンケート」に書かれたそれぞれの思いを集約するとともに、坂村真民記念館のこれまでの歩みを振り返り、改めて記念館の歩むべき道を確認することとしました。

〈展示概要〉

第1展示室では、これまで来館された方々からアンケート集計した「私の好きな真民詩」のベスト10の真民詩を展示しています。代表的な真民詩がほぼ網羅された展示となっています。

第2展示室では、「真民詩」の根底にある思想とその「坂村真民の生き方」に影響を与えた人たちの採り上げ、その影響から生まれた「真民詩」を展示しています。

また、通路の壁面には、これまでの企画展・特別展のポスターとチラシをすべて展示して、記念館の7年間の歩みを見ていただくこととしております。

どうぞ、多くの方々のご来館を心からお待ちしております。

来館者が選んだ「私の好きな真民詩」

第1展示室 展示作品

【第1位】 念ずれば花ひらく(全文)
【第2位】 二度とない人生だから(全文)
【第3位】 本気(全文)
【第4位】 タンポポ魂(全文)
【第5位】 鳥は飛ばねばならぬ(全文)
【第6位】 尊いのは足の裏である(全文)
【第7位】 あとから来る者のために(全文)
【第8位】 すべては光る(全文)
【第9位】 しんみん五訓(全文)
【第10位】 七字のうた(全文)



第2展示室 展示作品

こつこつ(全文)	昼の月(全文)
うた(全文)	遠い雲(全文)
つねに前進(全文)	両手の世界(全文)
わたしの詩(全文)	一遍上人語録
かなしみはいつも(全文)	森信三先生の三喝(全文)
飯台(全文)	しっかりしろしんみん(全文)
あの時のことを(全文)	身軽(全文)



版画家・畦地梅太郎さんと 真民さんとの関わり

愛媛が生んだ山の版画家・畦地梅太郎さんと、愛媛に移り住んだ詩人・坂村真民さんは、40代から50代のひととき、交流を持ちました。
真民さんの心を後押しした畦地さん。二人の関わりについて少しばかり。

畦地梅太郎さんは真民さんの7歳年上。真民さんは40歳ごろに、畦地さんの版画「阿蘇に寄す」に心を動かされて、短歌を詠んでいます。

地軸より揺り動かして騰るもの神が
らなる息吹を刻す

空青し渡らふ鳥の影もなく頂の石みな
生きて立つ

〔石笛「掲載」〕

阿蘇山は真民さんのふるさとである
火の国熊本〴〵のシンボル。畦地さんの
作品の持つエネルギーと詩情に、心を奪
われたように思われます。

二人の交流は幾度ありました。

真民さんが愛媛県吉田町に住んでい
た44歳のとき、自宅の部屋に畦地さん
を迎え入れて、絵や版画や山の話をし
たことが、思索ノート「サンマヤ目録14」
に綴られています。

それから7年後の昭和35年、真民さ
んが宇和島東高校の修学旅行で東京

へ行った折には、宿屋に畦地さんから電
話をもらいました。その時の言葉は真
民さんの心をあたため、強く鼓舞した
ようです。

〴〵世界へ出てゆく〴〵

そういう決心があなたからのお電話の受
話器を耳に当てながら

かつてないほど湧きあがってきました。
思いもかけなかった電話だっただけに、
よけいにわたしを感動させたのかも知れ
ません

旅から帰ってからまだ耳につく残って
いました

四国の片隅で終わろうと思っていた私に
あなたは赤々と燃えたつものを点じて
くださった。

あなたの絵を初めて見たときの
ときめきにも増して

雨後の澄んだ空を仰ぎながら

四国での孤独なあけくれのわたしにも
温かい手を差し伸べてくれる人があったの
かと

あなたとのつながりが思い出されてなり
ませんでした

もう一度〴〵世界へ出て行く〴〵
そうした願いが啓示のようにひびいて
開いてゆく花々をいっしんに眺めていま
した。

〔思索ノート「暁天録93」昭和35年4月5日〕

畦地さんの言葉に励まされ、前向き
になる真民さんの、晴れ晴れとして力
のわきあがる様子が、手にとるように
わかります。

畦地さんは、自分の郷里にくすぶつ
ている詩人の、美質や才能を感じ取っ
てのことだったでしょう。

ところで、この二人は共通項がいくつ
もあるように思います。

遅咲きの開花、貧乏の苦勞、家族を

畦地作品はここで見るができます

◆畦地梅太郎記念美術館

三間町出身の版画家・畦地
梅太郎さんの作品を約300
点収蔵する。その人生や多
色木版画の技法も紹介。
作家や版画について、多面
的に理解を深めることができ
る。道の駅まに併設。

information
宇和島市三間町務田180-1 道の駅ま
TEL0895-58-1133 開館時間:9~17時(入館受付~16時30分)
定休日:火曜(祝日の場合は翌日)、臨時休館あり 料金:入館300円



◆あとりえ・う

(畦地梅太郎ギャラリー)

畦地さんのアトリエを改装したス
ペース。作品展示のほか、ポスト
カード、手ぬぐい、缶バッチ、レプ
リカなどの各種グッズの販売も
行っている。

information
東京都町田市鶴川1丁目13-12
TEL042-734-8586
開館日:木曜日~日曜日・祝休日
開館時間:11~16時(夏季 17時)
入館は閉館時間30分前まで

大切にする気持ち、晩年の栄光と長
寿。なにより、素朴純情であり、温かい
眼差しや自然の本質を掴む精神は相
通じるもので、互いに親しい感情があっ
たのではないのでしょうか。二人の作品か
ら、版画家と詩人の共通する精神
を感じます。(文/タンポポだより編集部 森)



経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と
自分づくりをする



[パチンコ店経営]

株式会社 宣翔物産

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151

[関連グループ会社]

株式会社 クリオ

ホテルクリオコート博多
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111



『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

Tel 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



介護付有料老人ホーム To-be

78居室/20㎡~24㎡(1F&2F)



住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部

18居室/2LDK 40㎡~90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院横) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

サンマーク出版 坂村真民の本

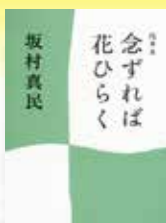
詩集
筆の詩墨の花



●定価=本体 3500円+税

坂村真民記念館
所蔵の作品を満載!

随筆集
念ずれば花ひらく



●定価=本体 1800円+税

初めての
随筆集を復刻!



10万部突破の
超ロングセラー!

詩集
念ずれば花ひらく



詩集●定価=本体各1000円+税

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167
<http://www.sunmark.co.jp>

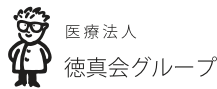
いま届けたい、生き方の道しるべ

詩集二度とない人生だから



詩集 宇宙のまなざし





医療は 人なり

徳真会グループの想い

徳真会グループは、1981年新潟県

の旧新津市という地方の小さな町より始まりました。ユニット3台、スタッフ6名といったどこにでもある様な歯科医院からスタートし、以来37年間、常に患者さま本意の歯科医療のあり方を追求し続けています。また、国会依存度の低い自立した組織運営を模索し、「世界が舞台」という意識で組織創りを行ってきました。

現在、年間90万人の患者さまにご来院頂く、世界最大級の歯科医療グループとなっていますが、時代先駆の組織創りへの挑戦はまだまだ続きます。



新潟、宮城、東京、大阪、福岡に32医院。
詳しくはホームページをご覧ください。

徳真会グループ

検索



www.tokushinkai.or.jp

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください

坂村真民記念館 友の会

検索

〈編集後記〉

企画展「坂村真民が愛した草花と木〜野に咲く草花や木を詠った詩と写真とのコラボ〜」好評開催中です。

「花の詩」と写真とのコラボ展という初めての企画は、皆さんとても気に入って下さってます。どうぞ、まだ見られていない方は、真民記念館では非ご覧ください。皆さんのご来館を心からお待ちしております。(西)

タンポポだより vol.27 冬号

平成30年12月1日発行 表紙写真：西澤孝一
発行元／坂村真民記念館友の会事務局
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内
TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)
休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日
入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり